

令和3年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

| | |
|--------|-----------------------------|
| 目指す学校像 | 生徒の個性を伸ばし、質の高い多様な進路を実現させる学校 |
|--------|-----------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> きめ細かい進路指導を通して、個々の希望進路の実現に向け粘り強く取り組ませる。 工夫された授業を通して、主体的に学習する態度と進路実現のための真の学力を身につけさせる。 より高い目標にチャレンジできるたくましい精神を育む。 開かれた学校づくりを推進するとともに、庄和高校の魅力が伝わるように情報発信する。 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 7名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 5名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | 年度評価 (2月1日現在) | |
|-------------|--|-----------------------|--|--|---|--------|
| 年 度 目 標 | | | | | 年度評価 (2月1日現在) | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者全員が第1志望に内定を得た。 進路目標を定めるのは入学時からの指導が大切である。 進学と就職どちらにも強い庄和高校になると魅力ある高校となる。 「行きたい」進路先に意欲的に挑戦する生徒の育成が課題である。 | 進路指導行事を精選し改善する。 | ①「主体的に考える力」「自己理解・職業理解する力」を養う進路指導行事を企画・運営する。 | ①生徒の「主体的に考える力」「自己理解・職業理解する力」を育成できたか。 | ①全体的には進路指導行事を経て進路に対する考え方や意識の変容が見られた。1学年で実施した「職業を知る座談会」終了後の生徒アンケート「進路を考える上で参考になった」約98%。 | A |
| | | 生徒の進路意識を向上させる。 | ①「より良い進路選択を目指す(チャレンジ)」ための指導を工夫する。 | ①生徒が「より良い進路選択を目指す(チャレンジ)」ことができたか。(進路希望調査・進路満足度調査) | ①朝学習や進学補習で新たな取組を行った。各種検定合格や進路実現に向けた継続的な学習にはつなげるまでには至らなかった。生徒アンケートでは「進路実現に向けた行動」を主体的にできた生徒は約95%。 | B |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 授業はプロジェクトなどの「ICT」を活用している。 今後も「ICT」の有効的な活用が期待されている。 教員相互に授業見学を行うなど教科指導力向上が求められている。 授業の理解度が約75%から約80%に向上した。 家庭学習時間が少ない生徒の割合が多く学習習慣の定着が大きな課題である。 | 教員の授業力を向上させる。 | ①教員相互による授業見学、各教科及び教科横断のグループで研究協議を実施する。 ②「ICT」「アクティブラーニング」を活用した研修を実施する。 | ①授業公開週間の設定、研究協議を踏まえ授業改善ができたか。 ②研修を踏まえ授業改善ができたか。 | ①11月に授業公開週間を設定し教員相互による授業見学を実施。12月に教科横断の各グループで研究協議を行った。良い取組を情報共有することで各教員が授業改善につなげることができた。 ②①の授業見学や研を参考に、教科の特性に応じて「ICT」「アクティブラーニング」を活用した授業改善を実践することができた。 | A A |
| | | 家庭学習時間を増加させる。 | ①教科の特性・学習段階に応じて生徒の学習意欲を喚起させ学習習慣を定着させる取組を行う。 | ①家庭学習等授業以外の学習時間が増加したか。(生徒アンケート調査) | ①生徒アンケートでは家庭学習等授業以外の学習時間の大きな変化が見られなかった。学力向上推進委員会を中心に「クラッシー」の試行を活用するなどして3学期の平日課題の取組につなげた。 | B |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策の制限がある中でも学校行事は工夫することで概ね実施することができた。 学校行事等に主体的に取り組んだ生徒は約96%だった。 新型コロナウイルス感染防止対策と生徒の主体的な教育活動の両立が課題である。 部活動の活性化が課題である。 | 生徒に社会性や協調性などを身につけさせる。 | ①生徒が主体的に参加する「学校行事・学年行事」を実施する。 ②部活動を通して「チャレンジする精神」を育む。 | ①生徒が主体的に「学校行事・学年行事」に参加できたか。(生徒アンケート調査) ②部活動未加入生徒に対して個別指導ができたか。(部活動活動状況調査) | ①生徒は登校制限や活動制限がある中、主体的に各種行事に取り組んでいた。生徒アンケートでは「学校行事・学年行事」に主体的に参加できた生徒は約97%。 ②校内・校外での活動制限がある中、各部活動では生徒の主体的な活動が継続的に行われた。部活動への積極的参加を促すため、部活動活動状況調査を踏まえ7月と1月の2回部活動未加入生徒に対して個別指導を実施した。 | A |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、学校説明会、個別説明会、部活体験を実施した。 学校ホームページは積極的に情報更新し、アクセス数は1日平均約1,300件だった。 新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、学校説明会での来校者誘導等に生徒会役員・部活動生徒の協力や部活動体験での対応に本校生徒が協力することについて検討する必要がある。 | 本校生徒が活躍する姿を情報発信する。 | ①学校説明会、個別説明会、部活動体験等を実施する。 ②春日部東ブロックの小・中学校や地域との交流事業の実施及び地域の行事へ生徒を参加させる。 ③学校ホームページの更新による積極的な情報発信をする。 | ①生徒の協力者数、生徒の活躍する場面を増やすことができたか。 ②交流事業参加者数及び地域の行事への参加者数 ③学校ホームページへのアクセス数 ③学校ホームページの更新回数 | ①学校説明会4回、個別説明会1回、部活動体験3日間を実施した。生徒代表の発表だけでなく、受付・誘導等として生徒会役員、野球部員、女子サッカー部員延べ66人が運営に貢献した。 ②小中学校との交流事業は本年度中止。地域との交流事業は春日部市・庄和商工会・庄和ロータリークラブの各依頼に代表生徒・第1学年生徒・生徒会役員・部活動生徒延べ210名が参加し学校を代表して地域貢献に取り組んだ。 ③学校ホームページへのアクセス数は1日平均で1216件〔4月から12月：前年度年間1291件〕 ③学校ホームページの更新回数は437回〔4月から12月：前年度年間370回〕 | A |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価 | 実施日 令和4年2月8日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは「進路指導が充実し十分な成果」の肯定的意見が約57%である。入学させて良かったと思う保護者が約8割いる割には低いので分析が必要。 第3学年対象に「選択した進路分野」と「卒業後の進路先」に対する満足度を調査すると学校の取組を評価しやすくなると思う。 教員相互の授業見学や研究協議を実施していることは評価できる。 教員相互の授業見学を「ICT」「アクティブラーニング」を活用した授業改善につなげたことは成果であり、引き続き質の高い授業を目指していただきたいと思う。 家庭学習時間については常に課題に挙がるが、保護者の対応が大きく影響すると思うので、保護者への呼びかけも重要だと思う。 修学旅行・遠足の実施は大変よかった。来年度も実施してほしい。 探究活動の成果発表を3年生だけの取組とはせずに1・2年生にも参加させたのは継続性の面から非常に効果的であると感じた。 保護者アンケートでは学校に求めるものとして「部活動」(7%)への期待が高くないので分析が必要。 学校説明会等の来校者受付・誘導は部活動単位以外でも協力できるように「学校説明会スタッフ(仮称)」を募集してはどうか。 地域連携や地域貢献は庄和高校の柱である。引き続き春日部市の小中学校との連携を期待している。 学校ホームページのリニューアルや更新回数的大幅増加は素晴らしい。今後も閲覧者にとって必要な時期に必要な情報が提供できるよう効果的な情報発信に取り組んでいただきたい。 |